

あとから来る者のために  
坂村 真民

あとから来る者のために  
田畑を耕し  
種を用意しておくのだ  
川を  
海を  
きれいにしておくのだ  
ああ  
あとから来る者のために  
苦労をし  
我慢をし  
みなそれぞれの力を傾けるのだ  
あとからあとから続く  
あの可愛い者たちのために  
みなそれぞれ自分ができる  
なにかをしてゆくのだ

# U-net 通信

## 令和5年 第2回 EM技術セミナー

U-net 会員対象の第2回 EM 技術セミナーが5月12日にオンラインで開催されました。今回、海外からの EM 活用事例発表と令和5年度 U-net ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトに採択された3つのプロジェクトについて発表がありましたので発表内容をご紹介します。

### マラマ ハワイ 「元気アラワイプロジェクト」

EM Hawaii Kouri Nago(名護 洸利)

ハワイアラワイ地区の観光地化に伴い、アラワイ運河の水質汚染が深刻化しています。

昔は釣りや泳ぐことを楽しめる河川でしたが、ここ40年ほどの間、周辺ホテル・飲食店からの廃水の流入により、水質が次第に悪化していきました。米国環境保護庁(EPA)が指標としている有機汚濁物質や腸球菌などの水質指標は、遊泳が可能な水準からは程遠い状況でした。しかしながら、この状況を改善しようとしているのが、私たち“元気アラワイプロジェクト”です。

私たちの使命は、生徒、教師、そして地域社会が力を合わせてアラワイ地区の生態系を回復させることです。EM 団子(元気玉)を使ったバイオレメディエーション技術で、2026年までにアラワイ運河を泳げる、釣りができる運河にすることを目標としています。

アラワイ地区の学校や地域住民、周辺ホテルなどと協力して、元気玉の作成・投入と環境学習を行うイベントを開催しています。ハワイの地域社会が河川や海洋の生態系改善について考える良い機会となっており、年々イベント参加者の数も増えてきました。ハワイの素晴らしい自然環境を未来に残そうとHISやJTBなどの日系企業からも水質検査費用のご負担など協力をいただいております。

私たちのプロジェクトは2019年に始まり今年で5年目になります。これまでに約35,000個の元気玉を投入してきました。その結果、プロジェクト開始時は、20-30インチ(50-70cm)あった河川底のヘド口の深さは、昨年時点で5インチ(10-15cm)ほどまで減少しました。

**元気アラワイプロジェクト est. 2019**

**目的:**  
 > バイオレメディエーション技術(EM泥だんご)により、2026年までにアラワイ運河を泳げる、釣れる運河にすること。  
 > 目標: 元気玉30万個

環境保護団体ハワイ・エクセンプラリー・ステート・ファウンデーションと協力して活動を進めています。

**現在の元気玉数**

- 2019: 1,016
- 2020: 360
- 2021: 3,998
- 2022: 16,125
- 2023: 18,376
- 合計: 34,501球 (23年4月1日現在)

12% < 目標の達成

目標達成のために...  
 265,000球 ÷ 3年 = 88,333球 ÷ 12ヶ月 = 1ヶ月7,361球!

**4つのテストサイト(投げ場)**

テストサイト

- 1) ホノルル市 & 郡: 11/27/2019
- 2) ハワイ州: 11/27/2019
- 3) ザ・リッツ・カールトン・レジデンス、ワイキキ・ビーチ: 12/22/2021
- 4) ホノルル・フェスティバル・ファウンデーション: 3/16/2023

他の水質指標も改善の傾向が見られます。また、アラワイ運河地区内において、ウミガメやマンタなどの生物が元気に泳ぐ姿を見る機会が多くなってきたり、最近では、これまで見られなかったアザラシが河川にひょっこり現れるなど話題になっています。そのおかげもあって隣国タヒチでも同様の元気玉プロジェクトが開始されました。

最後になりますが、タイトルにある”マラマ”とはハワイのことばで“思いやりの心”という意味です。ハワイが持つ素晴らしい自然環境を守っていくために、これからも”元気アラワイプロジェクト”を推進していきたいと思えます。



#### ■ 参考情報

ゲンキ・アラワイ・プロジェクト(THE GENKI ALA WAI PROJECT)の WEB SITE (英語)

<https://genkialawai.org>

ゲンキ・アラワイ・プロジェクト(THE GENKI ALA WAI PROJECT)の Instagram (英語)

<https://www.instagram.com/genkialawaproject/?hl=ja>

フィリピンの EM パートナーが作成した「Super Mud ball(スーパーEM 団子)はどのような役割を果たすのか？」のアニメーションです(英語)。

<https://www.youtube.com/watch?v=91393XQHFYY&t=16s>



★5月12日のEM技術セミナーの3日後、5月15日に、マリオット・インターナショナルから以下のプレスリリースがありました。

【ザ・リッツ・カールトン・レジデンス ワイキキビーチ】アラワイ運河の水質改善を目的とした「ゲンキ・アラワイ・プロジェクト」への募金額が3万ドルに到達

ザ・リッツ・カールトン・レジデンス ワイキキビーチ は昨年5月から、オアフ島内最大の水路、アラワイ運河の水質を7年間に渡って改善することを目的に掲げる「ゲンキ・アラワイ・プロジェクト」を支援する島内初のホテルとして活動していますが、これまでの募金額の総額がこのたび3万ドル（約405万円）に到達いたしました。

当ホテルでは、ハワイ州政府主導の、レスポンシブルツーリズムを推進するプロジェクトに同調する形で、昨年5月に「マラマ・ハワイ」宿泊プランを発売いたしました。このプランでは、1宿泊ごとに20ドル（約2,700円）が、アラワイ運河の水に酸素を供給する有効微生物（EM）を含有する「ゲンキ玉」の作成資金として寄付されるもので、これまでに募金により約3千個の「ゲンキ玉」が作られ、当リゾートの背面にあたる、アラワイ運河のカーライモク通りとカイオル通りの間のエリアに投下されました。これにより、投下エリアの水質改善が確認されています。

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000001366.000011305.html> より引用、転載



## 「地球っ子の未来を育てるワクワクガーデン」

伊予未来塾～共に育ち合うために 草間勲 草間道子 梶川靖代

私たちのプロジェクトは、これまで「もにこど」というカフェを営んでこられた草間さんご夫婦が長年抱いてこられた思い、「未来を担う子供たちの健全な成長の為に」、「地域・社会に貢献できる『もにこど』の役割」と模索しながら真摯に取り組まれてきた活動の中心に、新たに EM 農業を取り入れていくことで、活動の方向性が整いました。微生物の活用を通して EM 農業や EM 生活を共に学び、子供も大人も体験を通して『共に育ち合う』というのが目標です。

お二人のこれまでの活動は共通した経営スタンスに基づくものです。檜崎阜月氏の【静電三法】の著書に出会い、宇宙対向の静電気や植物波農法・電子技法に強い関心を持たれていました。現在の店舗と自宅建設時には4トンの電子技法炭が炭埋・敷炭されています。調理に使うのも電子エネルギー水です。

また【ノウフク JAS 農産品取扱店】としての認定も受けられ、施設からは草刈りの労働力を提供していただくこともあります。更に発達障害(神経発達症)の子供についても関心が高く、野本先生(EM 親善大使)の発達障害を持つ保護者の集いである【笑顔グループ】に従業員を紹介して応援されるなど高い意識をお持ちです。

こんなお二人の経営されるカフェは、テラスから海の見渡せる山沿いの閑静な立地で、自然を感じる環境、炭の効果と EM 結界で心も体も癒される波動の高さを感じます。また食材にはとてもこだわりを持っておられ、デザートに使うイチゴは EM 栽培のイチゴのみ。こだわりの食材で調理されたランチは温かいおもてなしを感じる料理で、年中お客様が絶えることはありません。野本先生も、県外から来られる EM 仲間を「もにこど」にご案内、ご接待されるなど、県外の EM ファンにとっても「もにこど」は憧れのカフェとなっています。

草間さんと EM との出会いは、【蘇生Ⅱ】の上映会です。出演されていた野本先生とは同じ愛媛でもあり、EM 仲間の友人を通じて繋がり、敷地の EM 結界、EM 電気化やワークショップを開催して頂くなどのご縁ができました。

私は薬剤師として長年勤務してきましたが、退職後は薬に頼らない方法で何か人のお役に立ちたいとの思いを抱いていました。それから旧知の友である草間さんに EM を紹介していただいたのは3年前になります。

田植えの後、腕にひどい湿疹ができ、漢方薬やケイシー療法では改善せず、ついに皮膚科受診しました。野本先生にお声がけいただき、O-リングテストでステロイドの用法、用量を確認して頂いて、プロハーブクリームで希釈して使うようになったところ、みるみる軽快していったのは驚きでした。ステロイドは処方量の100分の1以下程の微量でした。それ以来1000坪ガーデンのお手伝いをはじめ、野本先生には直接ご指導頂き、今は小さな畑で野菜作りをさせて頂いています。

ある時、草間さんから『共に育ち合う』というコンセプトに合致した活動を継続していくために、農業を始めたいとの構想を伺いました。EM を活動の中心に置くことで方向性を確固としたものにできると思いました。

電子技法炭の埋炭・敷炭



整流ブロック作り



また驚くべきタイミングで約 1 反の耕作放棄地購入のお話が上がり、農業サポートを快諾しました。初心者の私でもお役に立つことができる機会に感謝しかありません。また EM 仲間の賛同で、共通の志を持つ者同士での協力体制が整いました。更に経験豊富な EM 仲間の後押しがあり、今回のプロジェクトに応募することが出来ました。

これまでの活動は、自然豊かな遊び場を提供し、竹林の整備も兼ねて焚き火やミニキャンプの他、そば打ち体験、太鼓教室、コンサート、講話会などのイベントを行ってきたものです。EM を基軸にしたこれからの活動は、先ず購入した耕作放棄地を駐車場、畑、遊び場などに区画し、排水処理と畑作りを行います。それから①耕作放棄地の結界、②豊富な雑草で作る堆肥で土中の団粒構造化、③野菜栽培、④EM 団子作りと地域浄化活動、⑤収穫野菜での食事会・焼き芋など喜び体験、⑥無煙炭火器で EM 竹炭作りと日常生活での活用(石鹼、消臭、調湿、調理、水の浄化や入浴などに)、⑦ワークショップ(米のとぎ汁発酵液、プリン石鹼、生ごみ堆肥、酵素シロップや味噌づくりなど)開催、⑧柑橘・ブルーベリー植栽と収穫物の加工品(EM でジャムやクッキーなど)作りと販売などを計画しています。将来的にはイベントの参加費やワークショップで作った作品や加工食品の販売収益で運営を賄って、自立していけるよう企画していきます。

#### これまでの活動内容

- \* 購入した土地の土作り
- \* 焚き火会
- \* そば打ち体験
- \* 太鼓教室
- \* コンサート
- \* 講話会



また、ここ伊予市は、自然農法で注目を浴びた福岡さんの圃場があり、EM のことが大変誤解を受けている地域でもあります。この地で EM 農業を推進していくことには意味があるのではないかと考えます。また、活動内容は『野本先生から EM を学ぶ』グループラインでシェアし、EM 仲間との連携を図っていきたいと思っています。

『もにこどガーデン』という憩いの場で EM 農業の体験を共有したり、家庭での調理・掃除・洗濯などを EM 生活化していくことで『生活の質の向上、健康管理、環境への負荷低減』が加速していきます。また、体験学習や体験を通して得た失敗や成功例、驚きや発見などシェアし合い、支え合っていくことで自立心、自主性が養われ、協調・協働する能力を育むことにつながります。大人も子供もお互いを認め合うことで、自己肯定感が高まり、社会を生き抜く力が育つものと頼もしく思います。ここを伊予未来塾として『共に育ち合う』という目標が確固としたものになりました。

#### 『もにこどガーデン』(カフェの南東に隣接)



最後に、比嘉先生からは『使命感を忘れず、継続するように』との温かいお言葉を頂きました。私たちのプロジェクトはスタートラインに着こうとしている『胎動』の状況ですが、思いだけは熱く抱いています。EM 初心者のプロジェクトを応援して下さいることを忘れず、初心に戻り、丁寧に、確実にプロジェクトを遂行していきます。そしてワクワクと楽しい活動を継続していきたいと思っています。ありがとうございました。

## 「EM グラビトン農法による稲の多年草化栽培と限界集落の活性化」

ユニバーサルビレッジ七宗 岡村志保

岐阜県加茂郡七宗町に、祖父母が亡くなり10年ほど耕作放棄地となっている田んぼ、茶畑があります。祖父が亡くなる日に祖父から田んぼに協力して欲しいと言われ、今年から稲作に挑戦しようと決意をしました。

EMを11年ほど使用していましたが、個人的に使用していたのみです。2年ほど前に野本先生の研修を受講させて頂き、EMの可能性と希望に衝撃を受け、そこから、もっと地球のためにEMを広めさせて頂こうと、毎月通わせて頂き、UNIVERSAL VILLAGEにしおの副代表として、EM自然栽培の畑、環境活動をしています。

今回実施させて頂く七宗町は、9割が山林、町の中に大きな飛騨川と神淵川が流れている自然豊かな場所になります。人口3000人余り、去年の出生数は10名程で高齢化が進み、農業離れも顕著で耕作放棄地が広がっています。そのため、集落の方になぜ稲作を辞めてしまったのか聞いてみました。

担い手がない、体力的に辛い、雑草を抜くのが大変、年々お米が美味しくなくなった、川の水が冷たい、日照時間が少ない、収量が減った、イノシシや鹿や猿の獣害被害がある、農薬が高い、機械の修理費が高い、楽しくなくなったなどが聞かれました。最初からEMを活用し稲作を行おうと決めていましたが、お話を伺い、EM栽培は課題を改善することができると確信しました。

EMを活用することにより、川の水の冷たさ、日照時間の少なさ、土壌状態を改善できると考えます。結界の設置により、獣害被害から免れます。また、結界の設置により波動が高まり、収量の上昇、気分の高揚さを期待できます。活性液、ぼかし、炭の使用により、農薬を購入しなくて済みます。

でも、私には気がかりなことがありまして、祖父母宅まで片道2時間かかるところに住んでいること、仕事をしながら果たして可能なのかと危惧していました。そこで、EMの活用と、不耕起・冬季灌水・多年草化栽培を組み合わせたら、私の課題も解決するのではと思い、この2本柱で挑戦することに決めました。

不耕起・冬季灌水・多年草化栽培は、一連の作業が減っていくため、通いでもできること、機械を使う頻度が減るため脱エネルギーになること、表面にサヤミドロのトロトロ層が出来るため雑草が生えにくくなります。稲作のハードルが下がり、もっとたくさんの方が稲作に挑戦することができるといいなと期待をします。

私が小さな頃の30年ほど前はこの部落にも子どもがいて、たくさんの方が農作業をして活気がありました。でも今は子どもはおらず、ほとんど70代以上、耕作放棄地はどんどん広がり、いつも静まり返って寂しい状態です。

日本の耕作放棄地の現状を調べてみますと、どの地域も右肩上がりに増えています。そして、その理由は、どの地域も担い手がいなくなったことが一番の理由で、二番目は獣害被害でした。私が七宗町で感じたことは日本のどの地域も同じと知り、私がこの課題に向き合うことで、誰かの、どこかの地域のお役に立てたら嬉しいと、さらに挑戦する意欲が湧きました。

稲作に挑戦するもう一つの理由がありまして、上記のように活気が無くなっていることも気になっていました。野本先生の学び場には全国からたくさんの方が参加者が毎回いらっしゃいます。みんなで和気あいあい作業をしていると、とても楽しくあつという間に時間が過ぎ、マイナスイメージの多い農作業が自分でも挑戦したいとなります。そのため、私もこういう場にする事により、農業に関わる方が増えるのではと期待をします。

実際に稲作を始めると、主人、子どもたちも毎回楽しく作業をしてくれて、次に行く時を心待ちにし、家族の話題も増え、協力、感謝、思いやり、絆こういうものが強くなったように感じます。



また、私の父も2時間かけて手伝いに来てくれ、主人の両親も3時間かけて手伝いに来てくれ、近所の方も作業していると出てきてくれ、疎遠だった親戚も手伝ってくれて、限界集落なのに気づくとたくさんの方が田んぼの周りにいます。そして自然と近所の方による稲作講座が始まります。昔の方はこうやって、田んぼを中心にコミュニケーションの場にしていたのかなと感じます。田んぼには人を惹きつける不思議な力があります。

奈良から大学生の方、愛知県から中学生の方が農作業は初めてですが手伝いに来てくれました。2人とも、すごく楽しい、また来たいと言ってきて、中学生の方は帰宅してから祖父の畑を手伝ってみたいと嬉しそうに教えてくれました。他に、不登校の兄弟が愛知県から来てくれて、農作業はしなかったのですが、田園風景に癒され帰宅しました。家から一歩も出られなかった2人ですが、中学生のお兄ちゃんはゴールデンウィーク明けに自分から学校へ行ったと嬉しい報告がありました。

七宗町は人口が減っているため移住者を募っています。それも大切と思いますが、私は七宗町に関係する方を増やすことが先決かなと思います。そして、私が七宗町のためにお役に立てることを考えると、一緒に稲作をしてくださることを募ることに思いまして、役場や移住交流センターの方にお話しをしました。機械を貸すことができます。稲作のアドバイスをさせていただきます。結界の設置を一緒に行います。活性液をお渡しします。そのため耕作放棄地を貸して欲しいとお伝えをしました。みなさん、嬉しそうに聞いてくださりました。これから一緒に活動していきたいと思っています。

他に、田んぼの脇に看板を設置し、稲作の現状を書いています。

部落の方に稲作レターの発行を始めました。隣の部落に移住されてブルーベリー農園を始めた夫婦がいらっしやっただけでお会いし、この夏にはホテル観賞をしようと話をしました。私だけで活動するのではなく、部落の方、七宗町の方、自然と調和しながら、先祖の方の思いを引き継いで活動させて頂きたいと思っています。

今年度は、稲作の一連の作業を覚え実施し、部落の方や七宗町の方と接点を増やし仲間作りをします。来年度からは実際に一緒に稲作をしてくださる方を募ります。そして、七宗町で EM を使用した栽培を進めるために、活性液の配布、生ごみぼかしの配布をしていきます。また、茶畑も広大にあり耕作放棄地が広がっているため、お茶の栽培も始めます。そして、七宗町をきっかけに EM を使用した農業に挑戦される方を増やします。綺麗な水、空気、土から栽培されたお米とお茶をブランド化して、収入を発生できるようにします。再来年度には、私が住んでいる西尾市にもこの活動を報告させて頂き、実施に向け始動していきたいと思っています。

素人で始めたばかりで不安ありますが、とてもワクワクした気持ちです。日本人が大切にしてきた文化を継承していくため、自分が活動をスタートできることに心より感謝しています。



# 「つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり」

UNIVERSAL VILLAGE にしお 代表 石川知恵

UNIVERSALVILLAGE にしおは、愛知県西尾市の仲間たちと 2021 年夏に立ち上げました。代表の石川と、副代表の岡村の二人が、2021 年より EM 親善大使の野本先生より、月一回の高知、愛媛での現地指導に半年通い、今もオンラインで学び続けています。その学びを、西尾に持ち帰り、仲間にシェアし、また教わったことを実践しています。自分たちの畑を借り、青パパイヤ栽培の実践、メンバーのイチゴ農家で、EM 無農薬イチゴ栽培の共同実践、メンバーの梨園で結界張りや、EM コーティングなどの指導・ワークショップを行うなど EM グラビトン農法の実践や、EM 団子や活性液、ぼかしの製造を行ってきました。

西尾市は、名古屋から 40 キロの三河湾沿岸で、海も山もある農業も漁業も盛んな、人口 17 万人の都市です。もともといくつもの環境団体が EM で環境浄化をしており、その成果はこれまでも U-net で報告されてきた通りです。また、西尾市を含む西三河地方南部や知多半島では、30 年ほど前から、ぼかしを行政が配布していて、住民の一部が生ごみリサイクルを続けている地域でもあります。総じて、EM 活動が盛んな地域と言えます。

地域の課題として、①環境浄化や農業利用で EM 活動をしている方が高齢化などの理由での、活動グループの後継者不足、②EM 情報のアップデートが不足があります。そこで、私たちがリーダーシップをとって、最新の EM 技術を学びあい、その学びのコミュニティを育てることにより、課題の解決を図り、限界突破的なレベルアップを図ります。

そのために、1 年目の本年は基盤づくりを行ってまいります。①EM を使っている農家や活動団体等の実態把握、②勉強会の開催、③実践農場での実践と、環境整備です。

社会的効果として、西尾市地域の EM のレベルアップがあります。当地域は、三河湾沿岸で、海水活性液をふんだんに使うことができます。環境に優しい農作物の生産、学びあうコミュニティなどが充実し、自然と調和した幸福度の高い社会づくりに貢献できると確信しております。

私たちの活動が、EM 活用におけるユニバーサルビレッジの全国のモデルとして、皆様にも活用していただけるように活動を広げていきますので、ご指導応援をお願いいたします。

**UNIVERSAL VILLAGE にしお 紹介**  
 代表：石川 知恵 (いしかわ ともえ)

-2021年夏より

**EMグラビトン農法、EM結界技術を伝えよう！**  
**西尾の仲間と学び合おう！との思いで始めた。**

・グラビトン農法実践農場 (0.6反×2) 青パパイヤ、野菜  
 ・グラビトン農法共同実践 (いちご屋いしかわハウス一棟)  
 ・グラビトン農法指導・ワークショップ (羽佐田なし園、いちご農家、多品種農家など)  
 ・EM活性液、EM団子、ぼかし、発酵ロボットなどの作成  
 ・EM団子、活性液の河川投入  
 など

つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり 34

**EMグラビトン農法 実践農場 (青パパイヤ栽培圃場)**  
 今年は、5月19日に 永久植栽マス方式で 苗を植えます

どんどん大きくなりましたが、実は大きくなりすぎず

果と茎を お茶、酵素シロップに

つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり 9

**地域の課題とその解決**

UNIVERSALVILLAGEにしおが リーダーシップをとって **課題解決！！**

**EM活動の後継者不足**

- ・作る方、使う方が高齢化
- ・若い人に伝わっていない

**EM情報のアップデート不足**

- ・旧来のEMの方法を順守している
- ・それぞれが学び合っていない

UNIVERSAL VILLAGE にしおの実践が **全国のモデルとなりうる！**

**コミュニティを育てる**

- ・さらに、伝えあい、広げる

**最新のEM技術を学ぶ**

- ・グレードアップ、レベルアップを図る

つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり 24

**実践目標 1年目 基盤づくり**

- ・ EMを使っている農家の実態把握
  - ・ どのように使っているか、情報の入手先などの把握
- ・ 勉強会の開催 (2か月に一回)
  - ・ メンバーの学びあい、情報交換
- ・ 実践農場の実践と環境整備
  - ・ 青パパイヤを栽培し、EM農業者とマルシェを行う
  - ・ 井戸掘り、資材倉庫設置、軽トラ購入

つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり 29

**社会的効果**

サブタイトル

良質な 海水活性液の利用

学びあう コミュニティ

最新のEM技術 を活用

環境にやさしい 農作物の生産

微生物など生き物 をいくしむ心

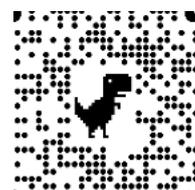
**自然と調和した幸福度の高い社会づくり**

つながり ひろがる UNIVERSAL VILLAGE にしお づくり 31

## 「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

各地で、それぞれ皆さんが自力で取り組んでおり、今回のセミナーで発表いただいた皆さん、ありがとうございました。ハワイやコスタリカ等、今では世界中で EM が使われています。国連機関も、有機農業や環境問題の解決には、EM を積極的に使うべきだと述べています。また、アメリカの微生物学会では、日本に 30 年遅れを取っていると述べています(参照 DND 第 184 号:右の QR)。今では、どこでも EM が使われるようになりましたが、これは、これまで決定的な技術が無いと皆さん困っていたのだと言えます。



EM は、40 年近く現場で使われている技術です。今回発表のあった西尾市は、EM が初めて行政で使われた現場のひとつです。西尾市や愛知県は、私の講演会が多く開催された地域です。長い年月をかけ、EM 活動の皆さんがつながり、どんどん成長してきたという背景が理解できます。

私は、『成功するまで続ければ失敗はない』と述べてきました。そのポイントは、EM を増やすことをみんなに教え、皆さんで取り組んで来たということです。色々な活動をする際に、技術の元を自分で作れないと活動は広がりません。当初、EM に関係する業者や関係者等を守らないといけないう立場がありましたが、こういうことは卒業し、良い活動を持続的にするのに資金が無い、となっては元も子もない話で、EM は、技術の元は自分たちで作って、そして、新しい価値を生み出しながらどんどん広げて行くことができる。このような技術がないと社会は本当に良くならないと述べてきました。

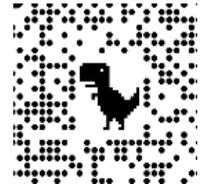
こういう良い活動をやりたいと思っても、資金が必要だ、寄付を集めようと言っていると、とてもできない話になります。しかしながら、自分で海水を汲んできて、EM を購入することは自分の小遣いからでも始められる簡単な話です。庭の片隅でも EM を増やすことができ、EM を活用して凄い成果が出せ、少しずつ広がって行く。これで世の中を変えられるかもしれないという安心感や、EM を増やせる技術を極めることで絶対上手く行くという自信が生まれます。そして、一緒に取り組んだ方々と情報交換が盛んに出来るようになると、このような活動は自然と社会化し、幸福度の高い社会の構築に繋がります。

EM 技術を学習することで、農業や環境問題の解決に取組み、飢える心配もなく、病気になる心配もなくなります。今では、学ぶことはインターネットでどうにでもなる状況ですので、EM の情報を検索、精査して、病気にならない生き方や、環境保全型農業等に取り組むことができます。一方で、地球全体で炭酸ガスや北極圏のメタンガスの問題が言われていますが、メタンの発生する場所等に、例えば EM の工場を作り、EM を大量に使えば、メタンは腐植や有機物となりすごい資源となります。しかしながら、世界の認識はメタンの対策はできないと言っています。牛のゲップや水田から発生する泡もメタンですが、EM を使うとこれらの問題は解決できます。EM でメタンを消化する微生物が増えるため、ヘド口も減ります。今の地球環境の問題も、多くの人々が EM を使うと全て解決します。

コスタリカでは、EARTH 大学(熱帯湿潤国際農業大学)で EM 技術を修得した指導者が育成されており、卒業生が中南米やアフリカ各地に広がって EM の事業を行っています(参照 DND 第 6 号:右の QR)。年に 1 度は中南米 EM 会議を開催しており、最先端の EM 情報交流が行われ、毎年のように EM 技術が着実に進化しています。今では、私も EM 関係の業者を守る立場を卒業して、最新の EM 技術をオープンにし、ネット上の連載を通じて公開し、多くの方に成果を応用してもらい、その報告を受けて更に先に進んだ研究を進めています。特に、鳥獣害対策については、日本だけでなく世界で問題になっていますが、EM 結界だけで成果を出すというのは誰も信用しませんが、それでも実際に取組んだ方なら分かる技術になっています。EM 結界で上手く行かない時は、波動が低いだけなので、波動の高い EMX GOLD を定期的に使って、波動を高めることで EM 結界により畑やその周辺地域の状況が変わってきます。



EM 結界で使用する炭を準備する際、無煙炭化器に炭の材料を準備して、材料の 1/1000 量の EM グラビトン炭(参照ウェブエコピュア:右の QR)を足すことで、良質な高波動の炭を無煙炭化器で作ることができます。U-net 会員に提供している整流シールで誘導する方法や、前述の EM グラビトン炭を添加する方法で良い炭が作れます。



次に最近の報告では、イネの多年草化や、水田の雑草対策で、先行的な取り組みをされている事例があります。EM 団子を作り、2m毎に水田に埋めると、水田の土壌が全部トトロ層になり、草が生えて来ません。この EM 団子に上記で紹介した高波動の炭を混和すると更に良い土作りが可能です。この報告は、三重県津市の小野さんからのもので、彼は、今は株出しのイネとその後のムギ栽培という三毛作にチャレンジしています。報告で見たムギは、少し栄養が足りない感じてしたが、ポカシを倍の 100 キロいれたら改善できそうな状態でした。

圃場の管理で、その都度都度に EM を入れ、常に EM だらけにすると、年々土壌の力が上がって行きます。従来は、栽培を終えると、圃場の管理はこれで止まってしまうますが、いつでも圃場に EM を入れるようにすると、圃場に何もなくても EM が土壌の地力を高めます。圃場周辺の草や有機物も入れ、常に EM が投入していると EM の密度が上がり、圃場のパワーが上がって行きます。重要なのは、EM は生命のある資材ということです。EM の微生物がたくさん増え、成長すれば必ず成果が得られます。この原点と、EM の増やし方は皆さん知っているの、常にこのポイントに留意すれば、私から特にアドバイスすることはなく、すぐに高いレベルに到達することができます。

また別の報告では、鎌倉の小泉さんは、EM 希釈液の点滴を圃場に設置し、その効果を更に認識するようになったとの報告をいただきました。もちろん、EM 結界を設置していますし、EM 讃詞も実践しています。奥さんも EM 讃詞の実践に取り組むようになってきました。EM 結界を設置すると、空間に存在する様々なエネルギーが集約するような形になってきます。要するに、使っているものに対して敬意を表し、それが上手くいくようお願いを EM にする訳です。EM 結界が設置され、常に EM の密度が高まっていると、人間の想いがスイッチとなり、微生物が様々なエネルギーを供給します。そのため、雰囲気ガラッと変わって行くことが観察されます。これは、量子力学の一番の基本であり、お祈り(想念の管理)をすると必ず物事が上手くいくということです。昔からある地鎮祭や竣工祭がその例です。量子力学的な世界については、このような例を通じて、常に周りの変化を観察することで、各自のポイントを修得することができます。

今回発表いただいた 3 件で一番大事なことは、取組む皆さんの使命感です。社会を良くしたい、地球の環境を良くして行きたい、自分の立場で何ができるか、ということを考えながら取り組むことで、自ずと知恵も勇気も出て来ます。伊予未来塾はベースができていますので、後は本人の決心の水準次第です。今できることに取組みながら、県内には U-net 理事の野本さんもいるので、相互に交流して行くことで比例的な増幅効果が出て来ます。今日の 3 名の方は、この使命感をどんどん成長させれば、その使命のために沢山の人が協力するようになり、その分だけ成長しますので大いにチャレンジしてください。今回報告いただいた EM 活動を通して、人生の楽しみにしながら、協力している人がハッピーになることが一番楽しいことです。このような楽しい活動の原点をしっかりと押さえた上で、発展させ更なる活動を続けて行けば、結果として EM ユニバーサルビレッジになります。

過去には、土壤肥料学会が EM に反対した影響で、政府や行政も反対し、現場で良い成果が出ているにも関わらず、国会の質問においても科学的根拠が無いという、社会的劣化に苛まれたことがありました。しかしながら、日本では科学的根拠が無いと言うが、それならば何故世界中で使っているのか、国連の機関も推奨しているのか、従来の考えでなく、このような現実をしっかりと認識することです。

最後に、EM は育てる、成長させるアイテムです。従来のものは、物を買ったり売ったりする世界ですが、EM は買った人が育てるものです。EM が成長し、扱う人間の想念と合致したら、更なる波及効果が出て来ます。このような認識で取り組んでいただければと思います。今日の発表を聞いてみると、EM ユニバーサルビレッジも各地で更なる発展が加速すると思えました。ありがとうございました。

★令和5年第2回EM技術セミナーダイジェスト版  
動画視聴のご案内（会員限定）

5月12日に開催された第2回EM技術セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画が視聴できます。

**【配信期間】 6月23日(金)の朝9時～6月26日(月)の夜9時まで**

視聴をご希望される会員の方は**6月19日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局 ([info@unet.or.jp](mailto:info@unet.or.jp)) へメールにてご連絡ください。

**視聴用 URL は6月22日(木)**に事務局よりメールにてお知らせいたします。

## 事務局からのお知らせ

- 5月8日に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行されました。そのため事務局スタッフの国内移動も容易になりました。各地域でEM技術勉強会やワークショップをリアル開催されたい方は、事務局にご相談ください（基本、技術員や講師派遣に係る交通費と宿泊費は主催者にご負担していただくことになります）。引き続き、主催者に交通費などの負担がないオンラインでの講習会も対応可能です。
- 「地球環境共生ネットワーク」は、EM（有用微生物群）を用いた環境浄化活動の輪を広げていく会員の入会を受け付けています。会員には、会費をご負担いただく正会員・一般会員と当会の趣旨に賛同し寄付をお寄せいただく賛助会員があります。環境活動に関心を持つ多くの個人や団体の皆様に当会の活動にご理解をいただき、一緒に活動いただけますよう、皆様のご入会をお待ちしています。
- 当会は、会員の皆様の会費と寄付で運営されている特定非営利活動法人です。EM（有用微生物群）技術の活用による環境浄化をはじめ、広く社会に寄与することを目的とした活動を一層広げていくため、会の活動にご賛同いただける方からの寄付金を呼び掛けています。一人でも多くの皆様のご支援ご協力をお願いします。

## 【令和5年第3回 EM 技術セミナー開催のお知らせ】

令和5年第3回 EM 技術セミナーを令和5年7月7日(金) 14時～16時に開催します。

セミナーへの参加申込は6月5日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始します。お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。お申込みの締め切りは7月6日(木)です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 令和5年第3回 EM 技術セミナーは U-net 会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない場合がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。

例) 姓  名

ウェビナー登録についてご不明な点がございましたら、U-net 事務局にお問合せ下さい。

## 🌐🌐🌐 海外の EM 関連ニュース 🌐🌐🌐

### ■スペインとイタリアから来た学生たちがクロアチアの学生たちと共に海をどのように保護しているかを学びました。(クロアチア)

地中海の海洋生態系の保全是、リエカ第一クロアチア高校の重要な課題であり、リエカ高校の学生達はイタリアとスペインから来た学生たちと一緒に熱心に取り組みました。

一緒に時間を過ごすことに加えて、生徒たちはこの1週間、プラスチックリサイクルのワークショップや、地中海のモチーフの絵付けなどの様々なワークショップに参加して、海と海洋環境の保全について意識を高めました。リエカ魚市場では、クヴァルネル湾の動物相とクヴァルネル地域に生息する魚の種類について学び、魚の解剖と解剖学について学び、リエカ港の海水の水質を分析しました。コストレナのビーチで、EM 技術を使って海を浄化したり、自分たちで作った EM 団子を使ったりしました。



Pročišćavanje mora EM tehnologijom / Foto PRHG

<https://www.novilist.hr/rijeka-regija/rijeka/ucenici-iz-spanjolske-i-italije-u-prhg-u-gimnazijalci-naucili-kako-hrvatska-stiti-svoje-more/> より文と写真を引用・編集・転載